

目的 履き心地のよい靴を設計するための基礎資料を得るために足部の形態の把握を行った。

方法・結果 被検者は19～24才の女子学生50名である。1982年10～11月にマルケン法に準拠した方法で右足部10項目、左足部2項目を計測し、更に、右足部をモアレトホグラフィカメラで撮影した。撮影は外側、内側、踵側および足背側の4方向から行った。研究方法は先ずマルケン法による計測値および示数値の平均値、標準偏差、相関係数を求めた。その結果から足長と足幅/足長によって分類したグループごとに足囲線を中心に5部位の断面を求め足部の形態について検討した。同一の足幅でも足囲の分布にかなりばらつきが見られ、断面形状にも差異がみられた。それは足囲線から離れるほどそれが大きくなる。また足部の分類をする場合、足長と最も相関の低い足幅をとり上げ上記のように足長と足幅/足長により分類したが靴の設計を目的とした場合足幅よりヤ>相関は高いが足囲の方が適当であるように思われ今後検討して行きたい。